

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 8 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	26.6	3.8 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	34.9	5.86 kPa g	A系： - Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	33.2	0.23 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%

設備の点検作業に伴いデータ欠測

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.0
2号機	循環冷却システム	運転中	25.4
3号機	循環冷却システム	運転中	25.1
4号機	循環冷却システム	運転中	23.6

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/8 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 5. その他 >

・H26/7/6 11:10 頃 5号機補機冷却海水系配管の弁付近より海水が漏れいしていることを、パトロール中の当社社員が発見。海水の漏れい箇所の特定制等を行うため、準備が出来次第、補機冷却海水系を停止するが、これにより、使用済燃料プールの冷却も停止する。7/6 12:00 現在の使用済燃料プール水の温度は 23 で、冷却停止時における温度上昇は1時間あたり0.193 となり、運転上の制限値 65 を超えるまでには約9日間の余裕がある。なお、原子炉の冷却は別系統で行っており、補機冷却海水系を停止後も、現時点で冷却に影響はない。

\*原子炉やタービンで使用する冷却水を冷やすための海水

13:10 使用済燃料プールの冷却を停止。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 23.0 。同日 13:17 に当該補機冷却海水系を停止し、現場の状況を確認したところ、13:34 に海水の漏れいが停止したことを確認。念のため、漏れい水のサンプリングを行ったところ、塩素濃度が 16,000ppm、全ガンマ放射能濃度が検出限界値未満であったことから、漏れいした水は海水であると判断。今後、漏れい箇所の特

定等を行っていく。その後、漏えい状況を確認したところ、補機冷却海水系出口配管に設置してある流量調整用の弁本体に、直径約3mmの孔が1箇所開いていることを確認。今後、当該箇所の修理方法を検討する。

また、5号機原子炉建屋内の海水の漏えい状況を確認したところ、以下のような状況から、漏えい量は合計約1,310リットルと推定。

- ・原子炉建屋1階 :約2m×約3m×深さ約5mm(約30リットル)
- ・原子炉建屋中地下階:約10m×約8m×深さ約10mm(約800リットル)
- ・原子炉建屋地下階 :約10m×約3m×深さ約1mm(約30リットル)
- ・原子炉建屋地下階 :(約6m×約3m×深さ約50mm) / 2 (約450リットル)

水が溜まっている箇所が三角形のため1/2とした

なお、使用済燃料プール水温度は15:00現在で23度であり、運転上の制限値(65度)を超えるまでには、約9日間の余裕がある。

7/8 本日15:11に原子炉停止時冷却運転(炉心冷却)を停止後、15:40非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を開始し、使用済燃料プール冷却を開始。今後は、補機冷却海水系が復旧するまでの間、使用済燃料プール水温度ならびに原子炉水温度を見ながら、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(炉心冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を交互に切り替えることで、使用済燃料プールの冷却を行う。

・H26/7/8 13:39 ~ 多核種除去設備A系について、6月にC系にて新たに確認されたすきま腐食の対策(腐食が確認された吸着塔のフランジ部へガスケット型犠牲陽極を設置)を行うため、処理運転を停止。A系の停止期間は一週間程度を予定。なお、B系についても同様の対策を行うため、7月下旬頃から一週間程度、処理運転を停止する予定。

・H26/7/8 10:30 ~ 地下水バイパスにおける一時貯留タンク(Gr2)の貯留水について、当社および第三者機関による分析結果において、運用目標値を満足していることを確認したことから、海洋への排水を開始。

・H26/7/8 6号機については、燃料管理の一元化を図り6号機全体の安全性を高めることを目的として、原子炉内の燃料集合体を使用済燃料プールに移動を実施。使用済燃料プール冷却浄化系の冷却範囲を使用済燃料プールに限定するため、原子炉と使用済燃料プールを隔てるゲート(プールゲート)を閉鎖。使用済燃料プールゲート閉鎖後の原子炉ウェル水抜き作業のため、同日10:58に冷却を停止(停止予定時間:14時間)。なお、冷却停止時の使用済燃料プール水温度は25.0度。冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は0.292/hで、停止中のプール水温上昇は約4.1度と評価されることから、運転上の制限値65度に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上に問題ない。

:使用済燃料プールゲート閉鎖作業は、震災前の定期検査時にも行っていた作業であり、実績を有する作業

また、同作業に伴い、7/11 9:00~16:00にも使用済燃料プール冷却浄化系を停止する予定であり、7/11時点における冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は0.291/hであり、停止中のプール水温上昇は約2.1度と評価されることから、7/11についても運転上の制限値65度に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上に問題はない。

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全17本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/7/9 海底土被覆工事に使用している揚錨船を取水路開渠内に係留させるため、1~4号機取水口北側に設置したシルトフェンスを1時間程度開閉する予定。

#### [地下水バイパス揚水井の状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1~12 のサンプリングを継続実施中。

#### [H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]**

**< 地下水観測孔サンプリング実績 >**

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]**

**< 地下貯水槽サンプリング実績 >**

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上